

第7章

緑のまちづくりを 着実に進めるために



第7章 緑のまちづくりを着実に進めるために

計画の推進体制、進行管理について示します。

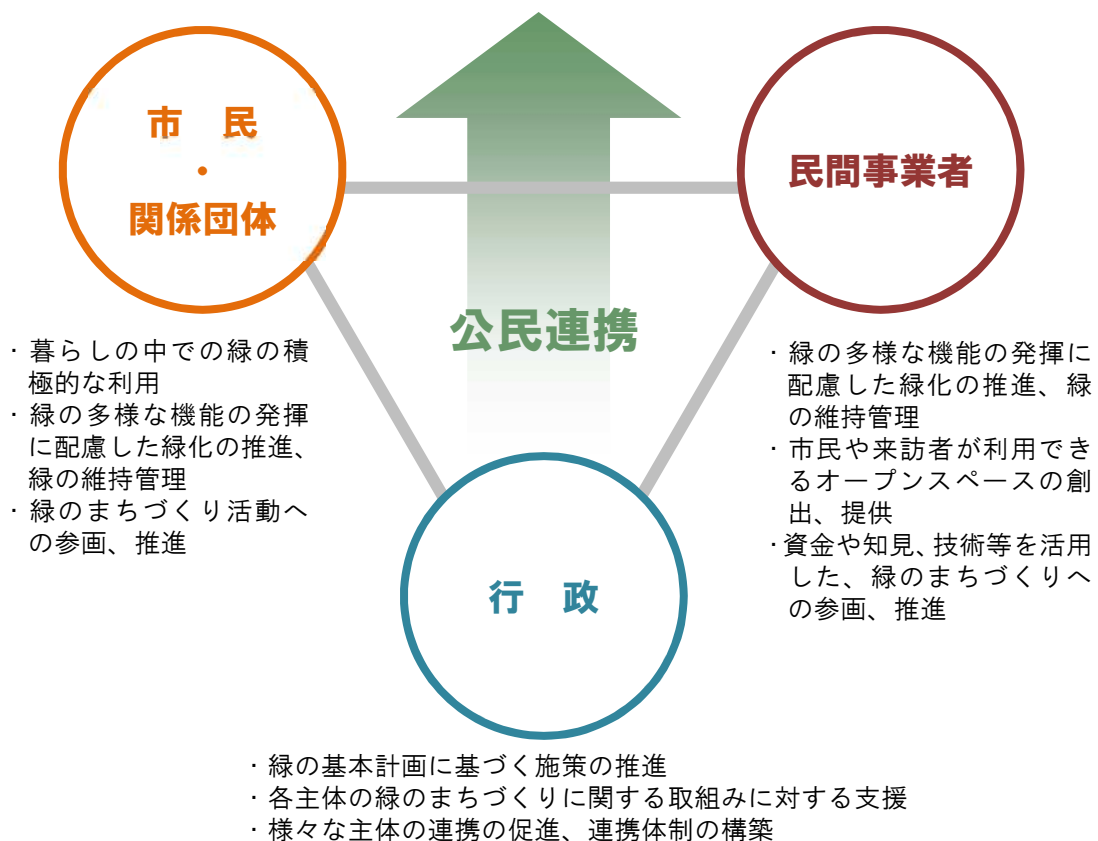
1 計画の推進

(1) 役割分担

まちづくりに関わる様々な主体が役割分担を行い、個々の取組のなかで緑を保全・創出・活用していくとともに、互いに連携しながら取組を推進していく必要があります。

市民、花いっぱい運動推進会やみどり愛護会等の関係団体は、暮らしの中で緑を積極的に利用するとともに、緑のまちづくり活動に参画、推進していくことが期待されます。民間事業者は、事業所での緑化等を推進するとともに、資金や知見、技術等を活用して緑のまちづくりに参画、推進していくことが求められます。行政は、各主体の緑のまちづくりの取組への支援や、様々な主体の連携を促進していきます。

「みどりの豊かさを感じる 快適なまち さいたま」の実現



(2) 公民が連携した推進体制の構築

緑の取組を通じて社会課題の解決に寄与することを目的に公民が連携し、地域の実情に応じたプラットフォームの構築を検討します。

また、プラットフォームにて市民・民間事業者の連携による緑のまちづくりの案の検討や、その取組の展開を積極的に支援することを可能とする仕組みづくりを検討していきます。

2 計画の進行管理

緑の基本計画をより実効性のあるものとするために、本計画を運用する上では、以下の取組を実施します。

(1) 本計画の進行管理について

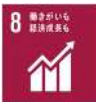

本計画の進行管理にあたっては、第3章に示す緑の目標値の達成状況や第5章に示すリーディングプロジェクトの進捗状況を評価・検証するとともに、本市のまちづくりの状況をモニタリングし、社会課題の解決に向けて緑の機能をより活用すべき分野、より注力すべき施策の方向性等を検討します。

【モニタリングの方向性】





グリーンインフラの取組は、SDGsと親和性が高く、本市が抱える社会課題の解決に貢献して持続可能で魅力あるまちづくりを目指すものであることから、SDGsの視点から関連する指標を生かしたモニタリングを実施します。

【モニタリング内容の例】




1. 緑を通じて都市の魅力・活力を高め、選ばれる都市をつくります

SDGsで目指すゴール	モニタリングの視点・活用する指標例
 8 豊かになる経済成長 豊かな緑を近くに感じられるビジネス一辺倒ではないゆとりある都市環境	○緑によって本市の都市イメージが向上しているか 【指標例】本市に「自然豊かなまち」のイメージを持つ在住者、在勤者
 9 産業と付帯業の発展をつくり出す 人、モノが集結し、交流する東日本の交流拠点都市の実現	○緑とふれあえる都市環境、職場環境が形成されているか 【指標例】民間企業による緑化件数


2. 身近な緑を享受し、日々を快適に過ごせる都市をつくります

SDGsで目指すゴール	モニタリングの視点・活用する指標例
 2 食糧をゼロに さいたまの新鮮・安全な農産物の供給	○農地の生産機能、食糧供給機能が確保されているか 【指標例】耕地面積、生産緑地地区面積
 3 すべての人に健康と福祉を 生き生きと健康で暮らせる都市の生活	○市民が健康的な生活を送っているか 【指標例】公園運動施設等利用状況
 11 安全豊かで住みやすいまちをつくる 身近に憩いの場がある暮らしの実現	○市民がオープンスペースを利用できているか 【指標例】公園の利用頻度
 15 陸の豊かさを守る 生態系の恵みの享受	○生物の生息・生育・移動のための環境が守られているか 【指標例】コゲラを指標種とする市内の緑のネットワーク面積

3. 緑を生かして都市の強靭性を高め、安全・安心な都市をつくります

SDGsで目指すゴール	モニタリングの視点・活用する指標例
 7 エネルギーをすべての人に 安く清潔に 提供しよう <p>ゼロカーボンシティ の実現</p>	○二酸化炭素の排出が抑えられているか 【指標例】 市民1人あたりの温室効果ガス排出量
 11 包摂的で 持続可能な 都市を 築こう <p>首都圏を支える強靭 な都市の実現</p>	○安全な都市が形成されているか 【指標例】 本市に「災害に強いまち」のイメージを持つ市民割合 災害リスクの高い地区の面積
 13 気候変動に 具体的な対策を 取ろう <p>自然災害の影響緩和</p>	○自然災害により都市環境が影響を受けているか 【指標例】 豪雨・冠水等の被害履歴、都市部の気温分布

4. 地域における緑のマネジメント体制を構築し、緑のまちづくりを支えます

SDGsで目指すゴール	モニタリングの視点・活用する指標例
 17 パートナリ シップで 目標を達成しよう <p>パートナーシップの 実現</p>	○緑によって人々の連携・交流が促進されているか 【指標例】 花いっぱい運動推進会活動箇所数 オープンガーデン実施庭数、緑のイベント参加者数 緑地の保全活動に参加したいと思う人の割合

COLUMN

ーモニタリングを活用した緑施策の検討ー

本市の緑施策を推進する上では、緑を保全創出するだけでなく、グリーンインフラの取組によって「緑の力」を発揮し、本市が抱える社会課題の解決に貢献していくことが重要です。モニタリング指標等を活用してまちづくりの状況を把握した上で、緑施策に求められる方向性を検討していきます。

<モニタリング指標を活用した検討イメージ>

まちづくりの状況把握

○市民意識調査から本市に「自然豊かなまち」のイメージを持つ在住者・在勤者の割合を確認

近年減少傾向にあることを確認

緑施策が市のイメージ向上に貢献できないか、検討を開始

まちづくりの状況に即した緑施策の展開

○減少傾向にある市民属性、駅前の緑被率など、より詳細な分析実施

○市の広報戦略、環境教育など、まちづくり全体の状況を確認

○特定の場所での緑化、環境イベント時の普及啓発など、緑施策としての注力方策を検討し、市のイメージ向上に貢献

本計画の運用にあたり、上位関連計画の改定やまちづくりの進展、社会情勢の変化等によって、緑施策の対応が必要となる場合には、状況に応じて計画の見直しを行います。

また、計画期間が終了する 2030 年度には、施策の進捗評価や社会情勢の変化等を踏まえて計画の改定を検討します。その際、目標年を迎えた本市のSDGsの達成状況と、ポストSDGs（持続可能な開発に関する 2030 年以降の新たな国際目標）の考え方を踏まえるものとします。

（２）戦略的な施策立案のための情報把握・共有

戦略的にグリーンインフラの取組を推進していくためには、市内の緑を取り巻く状況を継続的に把握し、変化に柔軟に対応しながら、効果的な施策を立案する必要があります。

市内の緑の分布状況を継続的に把握するとともに、小規模な市民意識調査を定期的を実施することで、市民の緑に対するニーズの変化を適時把握し、取組の推進と改善検討時に活用します。また、まちづくりに関する課題や空間的情報を庁内関係課で共有し、緑に関する情報と組み合わせることで、即地的なニーズを捉えたグリーンインフラの取組を検討していきます。

取組の評価結果は公表し、本市の緑に関する現状と課題を市民と共有します。

